

今回は、9月10日に行われた「プレ課題研究ポスター発表会」についてお伝えします！

概要

9月10日(木)の6,7校時に、約3か月の間、化学・生物・数学・国語・地歴・公民・英語・保体の8つの講座に分かれて活動し、班ごとに調査・実験したことをまとめたプレ課題研究ポスター発表会がクラスごとに行われました。

発表は8班が前半・後半の4班ずつに分かれて、一方の4班は発表者、もう一方の4班は聴衆者となって実施しました。発表者側は、最初の5分間で自分の班の発表、そして残りの5分間で質疑応答の受け答えをし、計10分間の発表を4回繰り返しました。聴衆者側は、各班の3人が「甘口・辛口カード」を引き、引いたカードに応じた質問やコメントを発言しました。後半は発表者と聴衆者を交代し、上記の内容を行いました。

発表の様子

今回の発表では、発表時間が守れている班が多く、スムーズに進行できていました。さらに、全体的に生徒の意識が高く、「甘口・辛口カード」を引いていない人でも積極的に質問している姿が見られました。

また、生徒の評価シートを見ると、『ポスターがよくまとまっていた』『質問に対して明確に答えられていた』などという好意的な評価が多く、各班の準備の成果が出ていたと思います。

一方で、『声が小さく聞き取りにくい』『原稿を棒読みしているだけで伝えようという意思が感じられない』などの指摘も見られたようです。

評価の高かったところはそのまま次回以降の発表に活かし、また、低かったところは改善できるよう反省しましょう。

講評・発表について

良い点

- 発表がスムーズになるよう素早い移動を心がけていた。
- 陸上部の欠席によって発表者が2人しかいない班があったが、質疑応答も含めて、興味深い内容だった。
- 工夫を凝らして聴衆により伝わるように考えながら行っていた。
- 考察を深くまとめて話していた。
- 発表時間がちょうどよかった。

改善点

- 原稿を棒読みしている人がいた。
- 指し棒の使い方が適切でない班があった。

↓発表の様子。原稿を見ずに話している



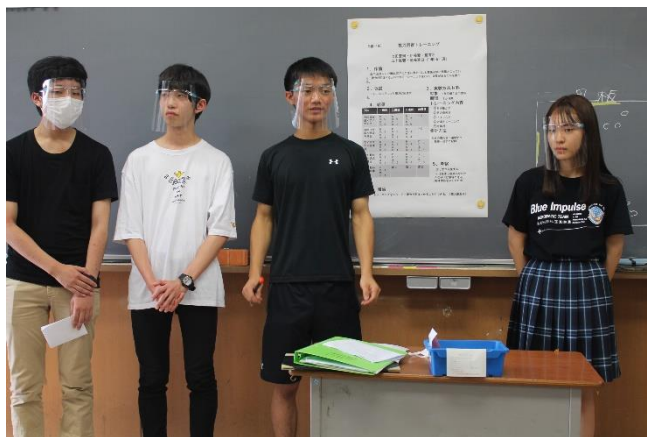
講評・ポスターについて

良い点

- 生物や数学の発表でグラフや表がポスターに大きく表示されていて見やすかった。
- ポスターに全て書くのではなく、要点を掻い摘んでかき、補足を言葉でつける班が多かった。

改善点

- ポスターの字が細かく、見えにくいというアドバイスやレイアウト・色使いに対する批判もあった。
- すべて同じ色にしているポスターもあり、目立たせたいところは色を変えたり枠で囲ったりする方がよい。
- 文字の羅列だけのポスターが多く、聴衆の興味が失せるので図やグラフを用いて、一目で内容がある程度入ってくるような工夫をする方がよい。



↑ポスターに表を用いて発表する様子。

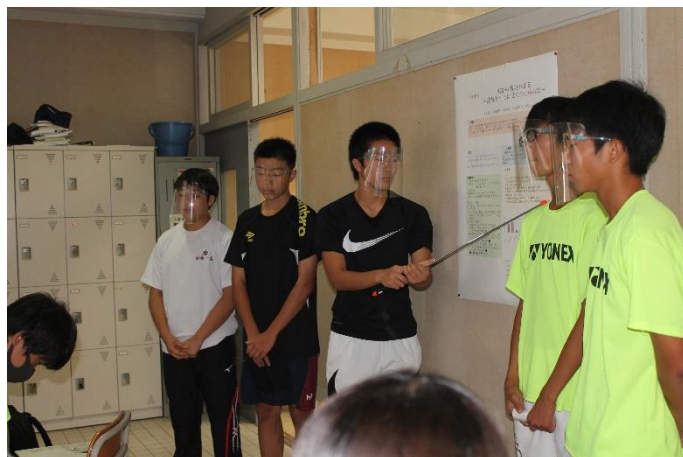
編集後記

今回は、クラスごとで班ごとに選択した講座で行った研究についてポスター発表を行いました。

今年のポスター発表は、新型コロナウイルスによる影響でフェイスシールドを装着して行いましたが、各班の発表では、伝わりやすくなるように様々な工夫が施されていました。

また、どのクラスでも質疑応答が活発に行われ、先生も質問に参加しているなど、全体的に良い雰囲気で行うことが出来ました。

これからの学術研究の授業では、自分で選んだゼミに所属し、今までのものよりも、より深い研究を行います。また、それに伴って難易度も高くなります。今回のポスター発表での良い点や改善点を次の発表に活かしましょう。



最後までお読みいただきありがとうございました！